

第一編
 第二編
 第三編
 第四編
 第五編
 第六編
 第七編
 第八編
 第九編
 第十編
 第十一編
 第十二編
 第十三編
 第十四編
 第十五編
 第十六編
 第十七編
 第十八編
 第十九編
 第二十編
 第二十一編
 第二十二編
 第二十三編
 第二十四編
 第二十五編
 第二十六編
 第二十七編
 第二十八編
 第二十九編
 第三十編
 第三十一編
 第三十二編
 第三十三編
 第三十四編
 第三十五編
 第三十六編
 第三十七編
 第三十八編
 第三十九編
 第四十編
 第四十一編
 第四十二編
 第四十三編
 第四十四編
 第四十五編
 第四十六編
 第四十七編
 第四十八編
 第四十九編
 第五十編
 第五十一編
 第五十二編
 第五十三編
 第五十四編
 第五十五編
 第五十六編
 第五十七編
 第五十八編
 第五十九編
 第六十編
 第六十一編
 第六十二編
 第六十三編
 第六十四編
 第六十五編
 第六十六編
 第六十七編
 第六十八編
 第六十九編
 第七十編
 第七十一編
 第七十二編
 第七十三編
 第七十四編
 第七十五編
 第七十六編
 第七十七編
 第七十八編
 第七十九編
 第八十編
 第八十一編
 第八十二編
 第八十三編
 第八十四編
 第八十五編
 第八十六編
 第八十七編
 第八十八編
 第八十九編
 第九十編
 第九十一編
 第九十二編
 第九十三編
 第九十四編
 第九十五編
 第九十六編
 第九十七編
 第九十八編
 第九十九編
 第一百編

員として日を送りつゝあつた白
 製鐵所長官は罷業解決後にあ
 ざれば歸幡せぬと頑張つて居たが
 七日夜九時窃かに新橋驛發急行列
 車に搭し九日夜八時五十分下關驛
 着門司に渡つた絶対秘密で歸幡
 るものさ見え門司に渡つてから
 行衛不明である

何人かこの叫びを

聞く者ぞや

勞友會及友愛會の報告演説
 息氣軒昂として熱辯を揮ふ

八幡製鐵所大事件の中心となれる勞友及友愛の兩會
 合同演説は八日午後一時より八時
 於ける中川次長と會見願未報告演説は八日午後一時より八時
 本報勞友會出張所外三ヶ所に於て開催せるが定刻前早くも聴
 けに奔々々會場に詰め掛け立錐の
 地なき盛況なりしが警官の物々しき警戒と降雨のため
 少難散せる者ありたり先づ中本町なる會場には警頭幹事藤
 六氏立ちて開會の辭に引導き中川次長この會

願未を報告し言々句々皮肉を浴

藤六の喝采を受け向次長の回答に不満の者は堂々意見を述べよ
 び替りて勞友會の藤前皆二氏拍手に迎へられて登壇悲痛の報告
 を読み終つて兩會員交々立ちて意見の交換演説をなし次に福團
 協會幹事川島眞次氏演説に表れ熱烈なる應援演説ありて午後四
 時了

鯨波を揚げて

勞友會報告演説後の群集
 製鐵所南門に殺到し來る

八幡市大門町勞友會本部に報告演説會後集會せる百餘名の
 集團は八日午後八時開の聲を作り
 折柄の大吹雪中を同市徳政町方面より豊山公園に
 歸し途中此處の聲を聞きし群集を合して二百
 餘名の大集團となり酒氣を帯べる
 群集は更に勢を激しなる演説を爲し群衆の氣勢に高まり
 誰れ云ふこなく製鐵所の襲撃をこ
 の聲に同公園を發するこ見る間に

化燈
 斯波
 第一編
 夏草や兵士もが
 野國河内郡池邊を經き
 は宇都宮宗圓が切腹
 百五十年幾多の擾亂
 草分けたる宗圓の姓
 郡宮土地の名を呼
 昌の巷となりしは元
 の事でごいませう三
 の八年松平下總守忠